宗像

毎月一日発行
定価一年 送料共250円
発行所
宗像大社社務本局
福岡県宗像郡玄海町田島
電話 神湊26番

——宗像大社宝物館——
宗像郡重要文化財共同収蔵庫
建設委員会発会式

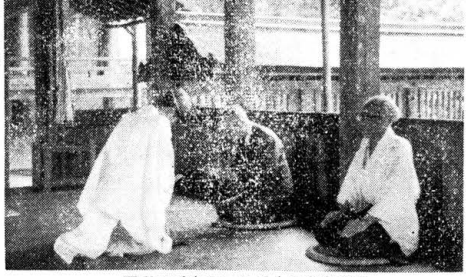
いよいよ新宝物館を建設する運びになり、去る七月七日宗像大社に於て建設委員会の発足をみるところまで漕ぎつけた。

七日十時、委員長出光泰亮氏（宗像神社復興期成会代表）をはじめ、町村長会長として高橋盛平玄海町長、町村長会事務局長代理、興聚寺壇徒二名、神社側からは吉武優一郎責任役員、久保宮司以下職員三名が出席、拝殿に於て発会の挙告祭を斎行した。

昭和二十九年より三十一年迄、前後二回にわたって学術調査を行った結果、古代から神秘の島として郡民に畏懼された沖ノ島の全貌が判明したが、その際発見せられた二万二千余点にのぼる古代祭祀遺品は主として一千五百年以前のもので大和朝廷より国家鎮護の熱祷を捧げられたものと見られている。内容は古代鏡、装身具類（中でも黄金の指輪は精巧無比で※玉類、容器類、ガラス製品、焼物類、金銅製品（中でも織機は有名）形代類（人形、馬形、舟形＝何れも滑石製品）、貝製品、祭祀土器等である。

以上は昭和三十六年に重要文化財指定、昭和三十七年にその一部が国宝に指定せられている。世界にも類の無い現代に生きる信仰遺品、しかも残られる神も民族もそのの信仰を愈々熾んにしている姿を有することは、世界中の宗教界の注目と驚嘆を浴びたものである。

※全国でも唯一の例）、馬具類、



写真は玉串をいただく出光泰亮氏

写真は現地調査の委員

この神宝類をはじめとして玄海町田島の興聚寺所蔵の色定法師の一筆一切経（重文）、宗像町郷土館に收録する郷土の文化遺品等を集めて宗像大社境内に宝物館を建設する運びとなったわけである。

奉告祭斎行後、出席者全員社務所の斎館に於て第一回の会議を開いた。先ず建設委員会の構成を発表、出席者の承認を得て議事を進行した。これ迄の文部省との接渉の経過及び現在の進行状況を説明次で委員会の規約を審議した。建設予定地は社務所東側の買收予定地約三坪をあてることとし、会議後調査を行った。

当局の助成金交出は多分昭和三十八、九年の両年にわたるであろう。完成の暁には宗教界でも特異の存在として拝観者を押し寄せるであろう、などと話し合って委員会は無事終了した。

宗像大社御用達
装束祭神具
松島神輿製作所
京都市下京区北小路通新町西入
電話 (37) 八八六九番
振替口座京都一五八九一番

論説
現代教育に思うこと

法務省の調べによると、昨年中警察に補導検挙された青少年の数は百七十万人、全国青少年の総数二千万人に対し十二人に一人の割合と聞いた。しかも強盗、脅迫、婦女暴行など刑法に触れたもの約二十万人、これを十年前に対比すると二倍の数に昇るとのことである。次代を担うべき青少年のこの傾向は国民として看過できぬ事柄である。

教育。

年を育成し、家庭、学校、社会人、として大いに反省再考すべきことではあるまいかと考える。

自主、自覚、の教育が叫ばれて既に三十数年、子供を自由の立場に置いて、自ら考え自ら行動せしむるのが新しい教育の行き方であって、強いて道徳の枠にはめ込んだり、道徳の権威をもってこれを律したりすることは避くべきだという学校教育。

幼児は自由気ままに伸び伸びと育てたがよい、これを叱ったり叩いたりして教育することは、真直にすくすくと成長している若竹を揉傷するような結果を招くとする家庭教育。

基本的人権の重んぜられる今日である、他人の子供の行動にまで干渉するが如きは、越権の沙汰であるとして、悪い行動だと思いつゝも見過してゆく社会人。

これ等のすべてが、青少年の教育活殺の鍵があると思い、今一段の研究努力の必要を感ずる。自由を尊重することにかたては、数等やかましい欧米の家庭教育に於て、幼少時代の躾教育は極めて厳格で、場合によっては体罰も辞せぬと聞く。道徳教育の基礎を確立すべき大事な家庭教育に於て、新らしい学習は進み、最後は書業巧みな児の主張に対し『賛成、々々』『そうですく』でこの問題学習は上首尾に終るが、さて立派だと見えた問題学習はこれだけでよいであろうか。『児童は果して真に反省し得るか』を論じた或る教育実際家の言（かつての東京高師教育研究に於て）を聞いたことがあるが、これは古い考えとして一顧の価値もないであろうか、自主自覚新教育の徹底に繋るものであるが、果してこれ等の教育に対し忘れられたり軽んぜられたりしている一面なきかを反省し尚次の三項を主張するものである。

①先ず、年寄や、父母、教師の言には従うという従順の徳を幼少の時はと強く、成長につれて理解を深めつゝ、家庭も学校も社会も共に力をあわせて涵養していきたい。

②理論を主張し、理屈をこねる知的指導も大切だが、その半面には道徳的感受性を高めて、人間の内面に潜む美しい心の芽生を助長したい。

③教育の理想とする真善美聖に目標をおくは当然だが、現実の問題として、信、と、行、とに生きる人間教育に総力を押し進めたい。

勝浦　永島計七

中間市宗像会の美挙！
―宗像大社宝物館建立資金寄附―

本紙四月号に「宗像大社宝物館設立趣意書」を発表し、次いで五月号には同趣意書の一枚刷りを折込んで会員各位に御志の寄進をお願いしました。

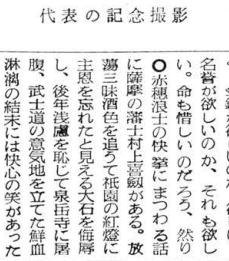
其の後この事を知って各方面からひき切らずに御寄附が続いています。

ご承知の通り、当大社の宝物館に格納するものは、さきに国宝に指定せられた沖島の御神宝を始め郡内に散在する重要文化財であります。それを神域内に奉安格納する為に、既に文部省当局とも接渉を続けており、昭和三十八、九年度に亘って国と県から助成金を交付して貰い、あとは宝物館建設委員会に於て各方面からの寄進をいただいて立派なものを完成したいと思っております。当局との接渉の面には相当困難な点もあると存じますが、何とかして宝物館を建設の上、わが宗像大神の御神徳顕現のために奢みたいと存じます。

この時にあたって社務本局一同が特に嬉しく思ったのは中間市宗像会の団体寄金でした。去る六月二十六日、中間市宗像会の岩崎恒助氏外二名の方が来社せられて、会員約二十名の寄附金を集めたからといって持参して下さった。一人平均二千円であった。金額の多少は兎も角、現在斜陽産業といわれる炭礦産業で成立っている中間市の会員が、率先一致結束して挙金して下さったわけである。

七月現在、宝物館寄附金は約六百件を数えている。

ここに中間市宗像会の美挙を御紹介して、大方の御理解と御支援をお願い申し上げる次第でございます。



写真は中間市宗像会代表の記念撮影

宝物館建設国庫補助金申請書提出さる

七月十三日より、当社担当職員が国庫助成金を得るために上京していたが、関係各省と接衝の結果、其申請書が理されて、大体の建設計画がまとまった。

これによると、鉄筋コンクリート九十五坪の建設計画であって、同地買收費、造園工事費等あわせると、総工費約二千八百万円にのぼる見込である。

工事着工は、来年十月からで約六月間にわたる工事で完成させたいと関係者は言っている。

暑中お伺い申し上げます

昭和三十七年盛夏

宗像大社宮司　久保輝雄
他職員一同

機関紙「宗像」編輯部一同

阿蒙少言

○テルモピレーの嶮に拠って雲霞の大軍を邀撃するスパルタ王レオニダス、背後の国民の安泰を祈求しつつ困難な鋒骨戦闘を敢えて挑んだ英雄の覚悟が偲みとれるなら英雄は随時現われて欲しい。自己の野望をのみ念頭して貴重な衆庶の生命を犠牲にする者、それは英雄にあらず罪賊である。

○行住坐臥、人間の知性は身辺に起る平凡な事象に磨かれてゆく。金銭が欲しいのか、それも欲しい。名誉が欲しいのか、それも欲しい。命も惜しいのだろう、然り

○赤穂浪士の快挙にまつわる話に薩摩の藩士村上喜覦がある。放蕩三昧酒色を追って祇園の紅燈に主恩を忘れたと見える大石を侮辱し、後年浅野家を偲して泉岳寺に屠腹、武士道の意地を立てた鮮血淋漓の結果には快心の笑があっただろう。名なき義士の益見雄が身を以て日本人の生きる道を綴ってくれた、貴重な遺芳を祖国の士に残してくれた

○「義は無神論だ神も仏も信じない。只法の与えた権限を行使するだけだ」とは或る小吏の広言、数日を経ずしてその妻君が頓死した「妻の肉体が科学的変化を起したのだけだ」とマルクス青年ばりの冷笑が浮かんだか。黙って山の神を拝め、五体を巡る血潮は幾情以外の理屈は持たぬ。

○他人の前で父をおとうさんと云う、社外の客に社長を社長さんと云う。正しい日本語を忘れると、日本の良さが見えなくなってくる。

○婆さんよそろそろ疲れが出た、おいとましなければなるまい。爺さんよ、そろそろ大事が近づく、彼岸に名もなき花を咲かせよう。（白雲）

第十六回　宗像大社献詠歌会詠草
七月一日於社務所詠草到着順

雨あしのふと遠のきて耳近に一きは聞ゆ田蛙の声　田島　宇都宮　弹

年毎の夏の沖津宮現地大祭今年は時化にて叶はざりけり　沖島　前田喬之助

ひの友旅に行き　戸畑　田中ハツセ

しつつ困難な鋒骨戦闘を敢えて挑んだ英雄の覚悟が偲みとれるなら英雄は随時現われて欲しい。自己の野望をのみ念頭して貴重な衆庶の生命を犠牲にする者、それは英雄にあらず罪賊である。仏者の云う覚悟論は難解だが、単に成行き上仕方なく諦めて決する軽率事ではない。人間一期の正覚を開いて決行する崇高な大事だ。覚悟はよいかと問われて直に返事が出来るか

○行住坐臥、人間の知性は身辺に起る平凡な事象に磨かれてゆく。金銭が欲しいのか、それも欲しい。名誉が欲しいのか、それも欲しい。命も惜しいのだろう、然り

○赤穂浪士の快挙にまつわる話に薩摩の藩士村上喜覦がある。放蕩三昧酒色を追って祇園の紅燈に主恩を忘れたと見える大石を侮辱し、後年浅野家を偲して泉岳寺に屠腹、武士道の意地を立てた鮮血淋漓の結果には快心の笑があっただろう。名なき義士の益見雄が身を以て日本人の生きる道を綴ってくれた、貴重な遺芳を祖国の士に残してくれた

○「義は無神論だ神も仏も信じない。只法の与えた権限を行使するだけだ」とは或る小吏の広言、数日を経ずしてその妻君が頓死した「妻の肉体が科学的変化を起したのだけだ」とマルクス青年ばりの冷笑が浮かんだか。黙って山の神を拝め、五体を巡る血潮は幾情以外の理屈は持たぬ。

○他人の前で父をおとうさんと云う、社外の客に社長を社長さんと云う。正しい日本語を忘れると、日本の良さが見えなくなってくる。

○婆さんよそろそろ疲れが出た、おいとましなければなるまい。爺さんよ、そろそろ大事が近づく、彼岸に名もなき花を咲かせよう。（白雲）

戸畑　伊規須ゆき
子等五人世にさぐり出し老父母の旅ゆく歌を繰返し誦む　吉田　占部　由久
たそがれの田園はる汽車の窓菜殿火見えて旅愁をそそる　吉武　立石　昇
小雨降る猥沢畔さまよひぬ柳のみどり美はしくして　勝浦　永島　計七
梅雨空にしば陽のさすアパートの窓々々に干物あざやか　名島　久保　房江
衣更へ若竹のごと男の子たち親より高く伸びまさのゆく　宮田　片山　一
つよき陽の遥より来る音沢のか薬種子知るらし日除笠の動く　福岡　林　まつえ
須玖の文化弥生の文化なりし土不変の土ひとへら尊し　内浦　長畑　房江
銀婚の旅よりくれ一教へ子の音信五月の杖立の宿ゆ　江口　辻野　開造
茶柱に打ち興じつゝ出て行き孫はテストを如何にさばくか　名残　竹原　円
会場に灯はおそくまでともりゐて土地廃收は夜に繞きぬ　原町　中村　幸子
しまひ湯に深く浸りて背戸に鳴くふくろの低き声をきゝをり　門司　永島　哲夫
五月雨の底に沈みて関門の灯はそれぐの色にけぶれる　田島　宇都宮　弹
田植の日蛙の声　沖島　前田喬之助
草刈の手を休めつゝ白百合の清き香りにしばしたゝずむ　宮田　片山　朔子
昇降機の扉が閉ぢせば一瞬を別離の情かわが裡を占む　村山田　吉田佐一郎
古を語るも楽しき今日の日よ驚くばかり進み行く世に　津屋崎　麦野　時雄
黒潮の荒き波風くひとめてこの国土護る南紀の巌屋　宮田　北原きみ子
ひねもすを傍人と睦をぬりおへてつゝがなき日の夕陽おろがむ　戸畑　伊規須ゆき
子等五人世にさぐり出し老父母の旅ゆく歌を繰返し誦む　吉田　占部　由久
たそがれの田園はる汽車の窓菜殿火見えて旅愁をそそる　吉武　立石　昇
小雨降る猥沢畔さまよひぬ柳のみどり美はしくして　勝浦　永島　計七
梅雨空にしば陽のさすアパートの窓々々に干物あざやか　名島　久保　房江
衣更へ若竹のごと男の子たち親より高く伸びまさのゆく　宮田　片山　一
つよき陽の遥より来る音沢のか薬種子知るらし日除笠の動く　福岡　林　まつえ
須玖の文化弥生の文化なりし土不変の土ひとへら尊し　内浦　長畑　房江
銀婚の旅よりくれ一教へ子の音信五月の杖立の宿ゆ　江口　辻野　開造
茶柱に打ち興じつゝ出て行き孫はテストを如何にさばくか　名残　竹原　円
会場に灯はおそくまでともりゐて土地廃收は夜に繞きぬ　原町　中村　幸子
しまひ湯に深く浸りて背戸に鳴くふくろの低き声をきゝをり　門司　永島　哲夫
五月雨の底に沈みて関門の灯はそれぐの色にけぶれる　田島　宇都宮　弹
田植の日蛙の声　沖島　前田喬之助
草刈の手を休めつゝ白百合の清き香りにしばしたゝずむ　宮田　片山　朔子
昇降機の扉が閉ぢせば一瞬を別離の情かわが裡を占む　村山田　吉田佐一郎
古を語るも楽しき今日の日よ驚くばかり進み行く世に　津屋崎　麦野　時雄
黒潮の荒き波風くひとめてこの国土護る南紀の巌屋　宮田　北原きみ子
ひねもすを傍人と睦をぬりおへてつゝがなき日の夕陽おろがむ　戸畑　伊規須ゆき
田植の日蛙の声　沖島　前田喬之助
草刈の手を休めつゝ白百合の清き香りにしばしたゝずむ　宮田　片山　朔子
昇降機の扉が閉ぢせば一瞬を別離の情かわが裡を占む　村山田　吉田佐一郎
古を語るも楽しき今日の日よ驚くばかり進み行く世に　津屋崎　麦野　時雄
黒潮の荒き波風くひとめてこの国土護る南紀の巌屋　宮田　北原きみ子
ひねもすを傍人と睦をぬりおへてつゝがなき日の夕陽おろがむ　戸畑　伊規須ゆき
子等五人世にさぐり出し老父母の旅ゆく歌を繰返し誦む　吉田　占部　由久
たそがれの田園はる汽車の窓菜殿火見えて旅愁をそそる　吉武　立石　昇
小雨降る猥沢畔さまよひぬ柳のみどり美はしくして　勝浦　永島　計七
梅雨空にしば陽のさすアパートの窓々々に干物あざやか　名島　久保　房江
衣更へ若竹のごと男の子たち親より高く伸びまさのゆく　宮田　片山　一
つよき陽の遥より来る音沢のか薬種子知るらし日除笠の動く　福岡　林　まつえ
須玖の文化弥生の文化なりし土不変の土ひとへら尊し　内浦　長畑　房江
銀婚の旅よりくれ一教へ子の音信五月の杖立の宿ゆ　江口　辻野　開造
茶柱に打ち興じつゝ出て行き孫はテストを如何にさばくか　名残　竹原　円
会場に灯はおそくまでともりゐて土地廃收は夜に繞きぬ　原町　中村　幸子
しまひ湯に深く浸りて背戸に鳴くふくろの低き声をきゝをり　門司　永島　哲夫
五月雨の底に沈みて関門の灯はそれぐの色にけぶれる　田島　宇都宮　弹
田植の日蛙の声　沖島　前田喬之助
草刈の手を休めつゝ白百合の清き香りにしばしたゝずむ　宮田　片山　朔子
昇降機の扉が閉ぢせば一瞬を別離の情かわが裡を占む　村山田　吉田佐一郎
古を語るも楽しき今日の日よ驚くばかり進み行く世に　津屋崎　麦野　時雄
黒潮の荒き波風くひとめてこの国土護る南紀の巌屋　宮田　北原きみ子
ひねもすを傍人と睦をぬりおへてつゝがなき日の夕陽おろがむ　戸畑　伊規須ゆき
子等五人世にさぐり出し老父母の旅ゆく歌を繰返し誦む　吉田　占部　由久
たそがれの田園はる汽車の窓菜殿火見えて旅愁をそそる　吉武　立石　昇
小雨降る猥沢畔さまよひぬ柳のみどり美はしくして　勝浦　永島　計七
梅雨空にしば陽のさすアパートの窓々々に干物あざやか　名島　久保　房江
衣更へ若竹のごと男の子たち親より高く伸びまさのゆく　宮田　片山　一
つよき陽の遥より来る音沢のか薬種子知るらし日除笠の動く　福岡　林　まつえ
須玖の文化弥生の文化なりし土不変の土ひとへら尊し　内浦　長畑　房江
銀婚の旅よりくれ一教へ子の音信五月の杖立の宿ゆ　江口　辻野　開造
茶柱に打ち興じつゝ出て行き孫はテストを如何にさばくか　名残　竹原　円
会場に灯はおそくまでともりゐて土地廃收は夜に繞きぬ　原町　中村　幸子
しまひ湯に深く浸りて背戸に鳴くふくろの低き声をきゝをり　門司　永島　哲夫
五月雨の底に沈みて関門の灯はそれぐの色にけぶれる　田島　宇都宮　弹

勝浦浜　永島　文子
深山路の巌根を洗ふ宣清水の幾日を経てや海につくらむ　東京　永島　潤
砂原に人影遠し弧は伸びて潮ばら光る故里の海　香椎　桜井　秀
今年竹の色鮮しく梅雨空に揺れをりねむき福野の片隅　香椎　桜井　ツ子
如何なる過失を秘めもつ山の湯に一夜なごみし彼の三昧の冴え　戸畑　山磨　昌子
車窓よりりんご畑のつゞく見ゆ白き花とも見ゆる袋きて　東郷　安部　重郎
吉日と祝して妻の縫ひたりし衣着て今日も一日安らぐ　〃　安部　静子
我が庭に小荷鶏鳴きて老の身に幸をもたらし呉れしけふの日　深田　中野　節子
主婦我の立ち居せまけれど朝な朝な子等の弁当よそふ楽せ　田島　三苫　重格
早苗とる乙女の姿見えずして水田に老夫背のびして居り　〃　小野　迪夫
つゆくもる海わたりつゝ心重し飛魚の羽根光るたまゆらも　〃　葦津　嘉之
大畝町に早苗植えつゝ吾が腰は早乙女に追はれつゝ手ゴヤモと鳴る　楠本　正
不知火の筑紫の春を惜しむごと菜殿火の炎燈を焚す　〃　滝口主米蔵
植付を終りし里の田圃道新夫婦つれだち帰り行く見ゆ　上西郷　岩崎　和荘
野の香り得も云はれざる五月空神の恵み尊かりける　吉武　立石ろせ
雨雲のひろがり早くときの間に新立山のいただき隠す　〃　原田　リノ
病いえ天とつれだつ野良の道迎ふるとく蝶のまひくる　岡垣　早川藤九郎
梅雨晴れの今日故郷を訪へば峠のあたり鶯の啼く　田島　神戸　幸夫
久々に祭おほひくれば雨蛙やたちになきて雨を待ち居り　神湊　隣船　俊
まっはかり打ち水をして家の庭石冷えゝと夏の炎天　福岡　井原　元彦
長雨の罪り重しに耐へず花ダリヤ大きな茎の根より倒るゝ

われわれのご先祖は神様ですからね、われわれは神様の子孫ですよ。ご先祖を神に祭り、その神に祈のまた奮ってお互いに日本人として励むのがわれわれの国民ですよ。すばらしいですね。一つの民族が国と運命を共にするというこの美しい姿が外国人には珍らしく、羨しいのですね。

そりゃそうでしょう。ご先祖の神様の中心が天照大神で、その直系のご子孫が連綿として続いている皇室なんですからね。権力や武力で民衆を威圧し征服した外国の君主とは根本からして訳が違いますよ。ですからごらんなさい、外国の王室の歴史は精々何百年かでしょう。何を歴史の長短をいうのではありませんが、その成立が平和的ではなかったことそれ以後の歴史が民衆との抗争であった外国王室の例と、日本のように国内の紛争はあったが、それが全部皇室を中心とすることが正義であり、また皇室は常に国民に善悪の際でも偏重のお考えをお持ちになられなかった事実とを較べると、どだい国の在り方が違いますよ。

アメリカは戦争に勝ったからといって日本を占領したが、わずか百年の伝統＝そんなものは伝統としょうかね。

さきにもいった通り、日本の国のあり方というものはすばらしいものです。これを外国人が羨しがっても二番煎じ、三番煎じがっても二番煎じ、三番煎じ、四番煎じ、五番煎じ、六番煎じ、七番煎じ、八番煎じ、九番煎じ、十番煎じ、百番煎じ、千番煎じ、万番煎じ、億番煎じ、兆番煎じ、京番煎じ、垓番煎じ、秭番煎じ、穣番煎じ、溝番煎じ、澗番煎じ、正番煎じ、載番煎じ、極番煎じ、恒河沙番煎じ、阿僧祇番煎じ、那由他番煎じ、不可思議番煎じ、無量大数番煎じ、無量無辺番煎じ、無量無辺大数番煎じ、無量無辺大数無量無辺番煎じ、無量無辺大数無量無辺大数番煎じ、無量無辺大数無量無辺大数無量無辺番煎じ、無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数番煎じ、無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺番煎じ、無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数番煎じ、無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺番煎じ、無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数番煎じ、無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺番煎じ、無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数番煎じ、無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺番煎じ、無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数番煎じ、無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺番煎じ、無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数番煎じ、無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺番煎じ、無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数番煎じ、無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺番煎じ、無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数番煎じ、無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺大数無量無辺番煎じ、無量無辺大数

八幡製鉄健康保険組合
玄海荘竣功式

神湊町に新しい施設が出来た。湊から東方五月橋寄りの浜辺一万数千坪の敷地に八幡製鉄の「海の家」が完成した。

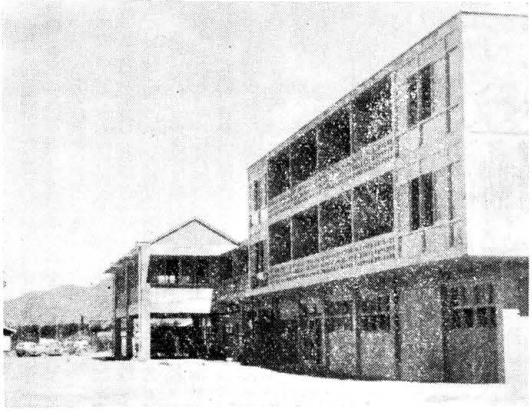
七月十日、大祓の職員三名が奉仕して竣功祭が斎行された。梅雨期にしては珍らしく晴れ上ったあつい日で、この玄海荘の竣功式と海開きを兼ねた祭典にふさわしい日和であった。

会する者数百名、八幡製鉄所長をはじめ会社関係者、地元の玄海町長をはじめ町有志等で、心からこの施設の完成を祝った。

特に高橋玄海町長の祝辞は印象深かった。この辺郷左田海岸には、これといった工場や諸施設が何一つ無い。文字通りの白砂青松の海岸線を有し、海水亦北九州でも最も汚染していない「玄海町の海辺を何とかして観光的に開発したいという念願があったからであろう。土地も喜んで提供し、町としても凡ゆる援助を惜しまなかった事情から推して、町長の感慨の中に「生涯忘れることのできない喜びであります」と述べられた言葉は真実を吐露したものと受けとることができた。

町長としてはこのほかに江口の浜にゴルフ場誘致問題があり、又某会社の籠詰工場をも誘致したい心組であるらしいので、玄海町の開発の一端をこゝに見たことに余程感激したのであろう。

玄海荘は八幡製鉄の健康保険組合の施設であるが、敢行力百五十名といわれる。工費約八千万円をかけたといわれ、瀟洒な鉄筋三階建の建造物である。(写真)



前面の右より鎧崎、地ノ島、大島、勝島、神湊の草崎半島を一望のうちにする位置にあり、この絶好の眺望は一度ここを訪れた者には印象に残るであろう。職員は六名しかいないそうで、利用者はすべてセルフサービスということになっており、近代的な施設としての要素を完備している。

出光興産九州支店
新社屋定礎式

これ迄出光興産九州支店は福岡市中島町にあったが、今度全市上名島町に新社屋ビルを建築することになり、この春上棟、祭を行った。続いて七月十一日、佐世保に於ける日章丸(十三万二千重量)の進水式に出席した帰りの出光佐三社長を迎えて定礎祭が行われた。大社からは久保宮司以下五名の職員が奉仕した。

定礎祭というのは、定礎石をつくり、これを建築物の根本とする意味の祭りである。

定礎銘板を封入し、水盃器で定礎石をはかって建物全体の狂いを調べる。それから鏝で塗り固め槌で打ち固める式を行うものである。

この式が済むといよいよ建築物の仕上げが行われる。

九月下旬に完成し十月に移転する運びになるらしい。工事の早いのも出光式のやり方がうかがえて興味深い。

宗像家畜市場御紹介

国鉄東郷駅に程近い国道の向い側に、宗像家畜市場がある。この市場は県下有数のもので、最近とみに発展している。以下は全市場の御好意に依ったものである。

◎市場開設までの経過

今までの家畜取引については不便な点が多く、価格の決定にも不公平な面があったので、適当な値段で公正な取引が出来るよう法律が制定された。これが昭和三十年に公布された家畜取引法である。この法律の為、今までの東郷家畜市場(家畜商組合が経営していた)は廃止されることになった。家畜市場の廃止は、宗像郡の畜産に重大な影響を及ぼすので、家畜商組合代表は全年九月、宗像大社清明殿に於て開催中の郡農協組合長会に対し、家畜取引法に基く家畜市場の開設方を要望したのである。

◇PTA会長協議会結成式◇2日午前9時、宗像町公民館。郡内の小中学校PTA会長で連絡協議会を結成。会則審議、役員選出、事業計画、予算審議など。◇海水浴場開き◇郡内の各海水浴場はつぎの日程で幕をあけた。△3日福間、津屋崎△6日宮司△9日神湊△11日大島。◇ウシの注射◇宗像家畜保健衛生所はつぎの日程でウシの流行性感冒予防注射をした。注射料は一頭五十五円▽6、7日河東▽9日吉武▽10日赤間▽11日南郷▽12日東郷▽13日勝浦▽14日津屋崎▽16日神興▽17日上西郷▽18日池野▽19日牟田尻、江口

◇玄海町映画会◇5日田島、神湊岡小学校▽6日岬、池野岡小学校、オリンピック募金の映画会町公民館主催。

◇悪い本を追放◇4日宗像町公民館で青年団婦人会代表、書店関係者を招いて北筑前福祉事務所から協力を求めた。青少年に悪い影響を与えるような本は売らないことを申し合わせ、「親と子のよい本を読む会」をつくることにした。

◇巡回映画◇津屋崎町公民館はつぎの日程で行なった。映画はマンガ、ニュース、劇映画『だれよりも金を愛す』文化映画『恐しいたべもの』いずれも午後8時半から。6日宮司、7日在目、8日須多田、9日大石、10日生家、11日奴山、12日桂区、13日勝浦浜、14日西東、15日松原、16日塩浜、梅津、17日末広、18日渡、19日町部。

◇宗像町農村青年支部長会◇6日午後1時半、宗像町役場、事業推進について。

◇健康優良児表彰◇郡の健康優良児童生徒審査会は、6日東郷小学校で郡内小、中高校から代表者五十二人が参加、審査の結果つぎの十九人が優良賞に選ばれた。池田一義君と赤田裕子さんのふたりが郡代表として県大会に出る。

【小学校】池田一義(赤間)浦口美枝子(同)中島和則(河東)赤田裕子(同)荒牧洋光(上西郷)徳永延寛(勝浦)花田良美(同)遠藤幸男(大島)仁部悦子(津屋崎)楠ひろ子(田島)

【中学校】松井津夫(福間)田中トシ子(同)占部文長(津屋崎)船越三男(大島)長谷川和代(同)河野千寿(玄海)

【高校】中村昌治(宗像)芹野幸子(同)稗田洋子(同)

◇宗像ラオンズクラブ発会式◇7日午後1時、福間会館。新役員を選出

◇福間町議会…10日午前9時から臨時町議会を開き、保育所、小学校給食室建設など審議。

◇ブドウ販売委員会…9日午前10時、農協会館。ブドウ生産販売計画について。

◇大島水神祭…大島海水浴場とキャンプ場(大島村観光協会主催)西日本新聞社後援)開きは11日大島村長、山口村議会議長ら地元有志と大島小学校児童らが集まって行なわれた。大島は神湊から定期船でわずか30分、多くの奇勝やたての放場、絶好の釣り場など魅力にとんだ周囲十二キロの島で8月いっぱい臨時船を増発する。28日にはこども水泳大会。

◇神湊海水浴場開き…9日午前11時から高橋町長、重松宗像署長地元有志のほか神湊小学校六年生も列席して海の安全を祈った。同海水浴場と期間中、納涼映画、黒人坊大会、宝さがしなどの行事がある。

◇養老施設慰問…このほど宗像町婦人会の篠原スミさんら十三人は緑風園をたずねて白米を、玄海町鎧崎婦人会はそうめんのり一たるを、宗像町土穴白石繁蔵さんはパチンコ機二台とタマを同園に贈った。(西日本新聞より)

◎開場日

開場日は月六回で、毎月四日、九日、十四日、十九日、二十四日、二十九日に開場する。

又、四月、七月、九月、十二月及び三月には定期仔牛せり市を開場する。

◎市場の性格及び主な引出地並に仕向地

当市場は二市家畜市場とともに県下の二大肉牛集散地市場で、本郡は北九州の肉牛供給地である。市場には郡内は勿論、他県他郡からも陸続と入場し、購買された馬は主として北九州に、一部は大阪に貨車積みされる。本郡は褐毛和牛の生産地として広く県内外に知られ、生産された仔牛は年間六回の定期仔牛市場において取引され、山口、佐賀両県の外久留米平野の各郡市に送られ育成されている。以下、市場開始から最近までの実績をかかげる。

◎市場の位置及び施設

市場を設置する場合、重要な事は家畜の集散に便なることである。当市場は国道三号線及び津屋崎町及び玄海町に通ずる県道に面しており、鹿児島本線東郷駅まで徒歩五分である。

市場には常時一二五頭を繋留つなぎ場の外、トラック、オート三輪車、専用積載所、秤量所、厩舎隔離厩舎等を設備している。

◎過去の取引実績

自昭和32年度
至昭和36年度　取引成績は次の通りである。

年度	入場頭数	取引頭数	取引総金額	備考
昭和32年度	3.549頭	1.488頭	92.694.000	自昭和32年7月13日
昭和33年度	5.174	2.421	144.022.000	至昭和33年3月31日
昭和34年度	5.249	2.549	168.047.000	
昭和35年度	5.173	2.226	173.564.000	
昭和36年度	5.766	2.239	210.162.000	

町村往来

消息

(在米)神山浦三郎

謹啓　時下益々御清栄の段大慶の存じます。

平素に存じます。

かねてより毎々「宗像」紙御送付に預りお蔭で郷土の模様を窺知できて、有難く、懐しく拝読して居ります。日頃は多忙にまぎれ、無音欠礼に過ぎ、申し訳なく存じて居ります。小生乙の度、自治大臣官房調査官を拝命し、自治省に帰ることになりました。前職総理府統計局製表第一課長在任中の御指導御支援を感謝致しますと共に、今後共貴紙を通じての郷土の皆様方の一層の御厚誼御叱正をお願い致し度存じます。貴紙が益々御発展あり様、お祈り致し、御挨拶まで申し述べる次第です。

(東京)伊規須徳博

拝啓　時下益々御社頭御隆昌の段慶賀の至りに存じます。

統計局製表第一課長在任中の御指導御支援を感謝致しますと共に、今後共貴紙を通じての郷土の皆様方の一層の御厚誼御叱正をお願い致し度存じます。貴紙が益々御発展あり様、お祈り致し、御挨拶まで申し述べる次第です。

(東京)伊規須徳博

尚欲を云わせて頂けば、狂瀾を既倒に廻らす底の宗像神道論が見られたならば一層光彩を放つだろうとひそかに期待しております。

敬白

(宇都宮)西田重一

拝啓　時下益々御社頭御隆盛の段慶賀の至りに存じます。

前職総理府統計局製表第一課長在任中の御指導御支援を感謝致しますと共に、今後共貴紙を通じての郷土の皆様方の一層の御厚誼御叱正をお願い致し度存じます。貴紙が益々御発展あり様、お祈り致し、御挨拶まで申し述べる次第です。

(東京)伊規須徳博

次に、宗像郡人は以前は拾七人ばかり在住しておりましたが、或る方は帰国なされ、多くは北アメリカの土となられまして、今は私達夫婦以外に御婦人が二人居られますが、市花と云う筑後の方に嫁して居られます。二世も宗像郡が十二人在中して居りますが、日本語が出来ないので話しになりません、第三世も生れております。

何分、在米五十幾年になりますが、田島様には幼い時に参詣して居たので未だに知って居ります。

カリフォルニア、フレスノ市バトルアベニュー、一二四二

(在米)神山浦三郎

謹啓　時下益々御清栄の段大慶の存じます。

平素に存じます。

かねてより毎々「宗像」紙御送付に預りお蔭で郷土の模様を窺知できて、有難く、懐しく拝読して居ります。日頃は多忙にまぎれ、無音欠礼に過ぎ、申し訳なく存じて居ります。小生乙の度、自治大臣官房調査官を拝命し、自治省に帰ることになりました。前職総理府統計局製表第一課長在任中の御指導御支援を感謝致しますと共に、今後共貴紙を通じての郷土の皆様方の一層の御厚誼御叱正をお願い致し度存じます。貴紙が益々御発展あり様、お祈り致し、御挨拶まで申し述べる次第です。

(東京)伊規須徳博

尚欲を云わせて頂けば、狂瀾を既倒に廻らす底の宗像神道論が見られたならば一層光彩を放つだろうとひそかに期待しております。

敬白

(宇都宮)西田重一

宗像大社御用　綜合印刷
有限会社 大和印刷所
宗像郡宗像町東郷　電話東郷27番

宗像伝説　その十八
孔大寺権現のいのり釘

これはまだ孔大寺権現のふもとに静かな一小部落がありました。ここに大人とまではいかないが、食うには困らない気楽な暮しを立てる老夫婦がおりました。此の老夫婦には小間使が一人居て名前をお玉と言い、ふっくらとして色白く、露を含んだカイローの様にひなには稀な美人でありました。

一家には浪風も立たず穏かに暮して居ましたが、ある時妻のおきよが腰痛の病で当分の間転地療養に行く事になりました。主人は自分も一緒について行こうと言いましたが、おきよはそれを断って一人で出かけました。後に残った主人と小間使のお玉は淋しく留守をしておりましたが、そのうちだんゝ慣れてまいりました。

二人暮しの日が続くにつれ、遠くて近きは男女の仲、近くて遠きは田舎の道恋に上下へだてなく、遂に夫婦以上の暮しをする様になりました。人の噂にもほろ様になり、妻の事など忘れようとしている処へ、妻のおきよが病いをなおし喜び勇んで帰って参りました。所が変です。おきよは、最初のうちは何もきがつかずにおりましたが、主人とお玉の様子が何となくおかしいので、或る日外出したふりをして様子をうかがってみますと、まさに予想した通り主人とお玉は普通ではありませんでした。

三人三様で、もんもんの毎日が続くようになりました。小間使のお玉はうら若き乙女心に覚え込んだ味はもうどうしても忘れることは出来ません。何とかして御隠居さんを我がものにしたいと思い、それにはいっそおきよ婆さんをなきものにしたらと思い色々思案致しましたが仲々良い智恵が浮びません。思いあまって五里程離れた有名な物識りのお婆さんの処へ相談に行きました。そこで秘伝をさずけられたお玉は、帰るとただちに近くの鍛冶屋に頼んで頭の無い釘を三十五本作って貰い、棟の木も三寸ドがると云う丑みつ時、手に用意の白装束に身をかためて家を抜け出しました。

頭七寸は、ワク(糸を巻くもの)の四角にローソクを立て、一丈の白木綿を後にたらし右手に槌をにぎり、左手に祈釘を持ち鬼神の様な形相で権現堂の森へかけ出しました。森の一番大きな樹木の二股に老婆の絵すがたを逆に張って一本打って一本打っては南無阿弥陀仏、二本打っては法華経を称え胸に三本、頭に五本、つがいくに釘打ちして、三十五本を打終り、一目散に帰って参りました。それから後、老婆のおきよは、えたいの知れぬ病で此の世を去りました。ところがやれやれと思う間もなく御隠居も又ほっくり他界してしまいました。

可愛いかった小間使いのお玉も今はすっかりやつれ、無明の夢もさめはて、犯した罪の恐しさに夢遊病者の様になって何処ともなく出奔してしまい、後の空屋敷は誰一人足を踏入れる者もない篠竹やぶとなりはて、居ると云う事です。

人を呪わば何とやらの話、恐しや、恐しや!

× × × ×

物質学者より人間学者へ（その九）

生光信上

（前号につゞく）

権力の奴隷となるな——占領時代——

それから、その次には占領時代、この占領時代に出光が一番に示したことは、一千人の人が帰ってきた、当時内地には四、五十人の人しか残っておらず、石油業もない、海外の仕事は全部なくなったときである、一応、当然首を切るべきである、しかしながら、出光としては人すなわち資本が帰ってきたというので、一人もやめさせなかったのであった。これは資本は人であるということを如実に物語って、この人が資本となって今日の出光を築き上げた。そういう事実がはっきりしている。

それから先ほど言ったように、占領政策としては、外国の石油業者と占領軍の経済科学局がいっしょになって、出光を石油界から追い出し、出光を絞め殺そう、毒殺しようとしたことは再々あったが、この占領政策の権力にしても、「日本の石油市場を独占から守れ」というような主張を言い通して、今日の成果を收めている。すなわちあの万能の権力の奴隷たることから免れたのである。

数や理論の奴隷となるな——独立後——

それから、独立後はどうであるか、今の現状であるが、人間というものはない、理屈を言って、そうして数ですべてを決する。人間というものは、諸君に承知かもしれないが、桧笠のことである。昔、雑兵が桧の笠をかぶっていて一つ二つと数えられたものである。現在、世間で民主主義といわれているものは、このように人間の質を無視して、そうして屁理屈を言って数で決している。理論と数は、今日の出光を築き上げた。そういうものはない、常識的にみて秀才が生殺しにあっているといわれても、いた方がない。過去においては資本家は人間を搾取していた。それに反して、社会主義、共産主義者は、国営によって人間を生殺しにしようとしている。それゆえ、彼らの論争は搾取されるのがよいか、生殺しになるのがよいか、ということになる。いずれにしても、人間を無視していることにおいて資本主義と同様である。それらが唱える国営は、役人によって運営されるものである。役人というものは、常識的にみて秀才が生殺しにあっているといわれても、いた方がない。過去においては資本家は人間を搾取していた。それに反して、社会主義、共産主義者は、国営によって人間を生殺しにしようとしている。それゆえ、彼らの論争は搾取されるのがよいか、生殺しになるのがよいか、ということになる。いずれにしても、人間を無視していることにおいて資本主義と共産主義もない。また反面共産主義も、社会主義も共産主義もある。同時に資本主義もなく、社会主義も、共産主義もないということを前から言っている。

主義の奴隷となるな

その次には、さっき言ったように、われわれには個人主義もなければ、全体主義もない。また反面共産主義も、社会主義も共産主義もある。同時に資本主義もなく、社会主義も、共産主義もないということを前から言っている。

これも昨日調べたところによると、今からおよそ四十年前に共産主義が日本で盛んに議論されていた。そのとき私は支店長会議（大正十四年九月）で、共産主義がはいってきて国内が非常にさわぎわしてきているが、われわれはそんなことに驚いてはいけない。われわれはこれを咀嚼して、良いところをとって日本のために尽くして悪いところはとるな、日本の国体を否定するようなところは不但厳禁である。

個人としては大いに自己修養し、立派な人間に自己を向上させよ、そして議論は大いにやり、できるだけ主張すべきものは主張せよ、しかしいったん主張し終わったならば、個人を離れて無私の境地に帰り、大局に一致せよということを言っていた。これが現在の少数精鋭の形をしておるのである。非常に少ない人間をもって出光が力強く発展しているというのは、この数や理論とからわれず、そして本当の人間の判断を尊重してゆくが、いわゆる数とか理屈の奴隷になっていないということなのである。こういう歴史をもっているのである。

孔大寺山の名の起り

福岡　田中嘉三

宗像郡と北の遠賀郡との境に四つの峰がならんでいる。これが昔から宗像四つ塚とよばれて、九州北部山系の一支脈である。

その麓の東から三つ目の山が孔大寺山で、高さかから、山の姿から、何といっても四塚中のナンバーワンである。山の八合目くらいのところに、東向きの社がある。これを孔大寺神社といって、宗像大社の摂社である。祭神は大己貴命と少彦名命である。

孔大寺山などという山の名は珍らしい名前で、おそらく全国でこんな名のついた山は、ここ一つでないかと思う。だから昔からこの特殊な山の名の起りについて、いろいろの話が流布されている。

④山頂の大穴から起ったという説

文安縁起、という書きものの中に、こんな意味の文がある。

山頂に大穴あり、この大穴より神は蛇身や白馬の姿で上半身を差し出し、生贄の処女を食い給う。この未婚の女は毎年九ケ国の持ち

写真は江口浜より孔大寺山の遠望

宗像遺徳集（二）

日本一の親孝行者　武丸の正助さん（4）

越智汎愛

二、藩主墓参り

前述の様に安政三年、正助さんの百回忌は藩主の命によって行われた十万に近い参詣者がありました。この時には、黒田の支藩秋月藩主が墓前に参り、又霊屋に入って廟前に次の和歌一首をしるして、金千疋を供えています。

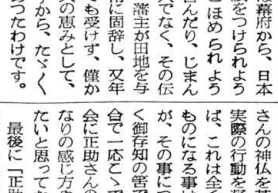
諸人の親につかふる手かがみとなるてふかげは千代もくもらじ

これは今も尚廟内に保存してあります。処がその前、寛政五年には黒田藩主がわざわざ墓参をしております。時に朝からの大雨で田舎路はぬかるんでいたのに、数百米をカゴにも乗らず、杖を頼りに歩いています。藩主はそうする事が正助さんの心に幾分でも叶う事だろうと、考えたからと記録に残っています。その後藩主は正助さんの墓を修補し、又その両親の墓をも改造し、石垣を作り石垣の下の田を買い取って正助さんの子孫に与えて祭田としております。

藩主が雨の中、田舎のあぜ路を数百米も歩いて一貧農の墓参をするなどこれも全く他に類を見ない事です。

三、日本一の孝行者—幕府の折紙付

正助さんに対する藩主の礼賛や墓参—これは江戸幕府が全国の孝子や義人の事績を集め一作った「孝義録」五十巻の為でもある事は関係がないとはいえないかも知れません。「孝義録」では孝行者正助の伝が一番長く記述してあります。四七四〇字もついやしています。尤も原稿は藩から提出したものでしょう。



代々の藩主は、江戸幕府が推奨したから、それに従って幕府に義理を尽くしたというわけのものでなく、孝義録中にもある通り、その編さん以前に藩主は色々と褒賞していますが—つまり、正助さんのまごころが藩主の心を孝義録以前に動かしていたのです。

「正助さん」は幕府から、日本一の孝行者と折紙をつけられようが藩主から色々とほめられようが、そんな事で喜んだり、じまんしたりする様な人でなく、その伝記にもある通り、藩主が田地を与えようとしても常に固辞し、又年貢公役を許されても受けず、僅かばかりの田地を天の恵みとして、喜び励んだのですから、たゞくまごころの人であったわけです。

四、結び—緑風園

以上申述べました事は主として正助さん没後の事に関する記録の一部分で、なお書かねばならない事が多くあるわけです。

殊に、その生存中に於ける正助さんの神仏を基調とした考え方や実際の行動を凝視熟考しなければ、これは全く死文死語に等しいものになる事は承知しています。

筑前国続風土記抜粋

甚だ怪偉の説をとるせり、恐らくは曾、氏の作です。机上には長さ三〇センチもある大きな硯が置かれ、次から次に絵が出来て行きます。今後のカット御期待下さい。ニックネームはメガネ、メガネにかなった御婦人が未だ現われませんので御一人です。自信がある御婦様はご御来社を!! 深田無庵、それは私です。

久保氏＝白雲先生と申し上げれば皆様もうおわかりでしょう。阿蒙少言の諷刺による部員一同ビクビクする事があります。命の綱はビールで、酒は一滴もはいっておりません。楽しみとの中にありーそれはビール瓶の中です。

神戸氏＝宝物紹介のおじさん、沖ノ島調査により島の事ならなんでもござれ、禁忌の島の秘密は私が握っています。少々気になるのは頭のうしろがうすくなって来た事、よくきく毛はえ薬はないでしょうか。

蒲田氏＝愛称オジイチャン、宗像伝説の生みの親です。シベリヤ出兵参加の旧軍人。鼻の下の髭の間から伝説が流水の如くかたられます。スクーターで出社するスタイルはスタミナそのものです。

小林氏＝部の最年少者、社務日誌を担当しています。気はやさしく力もちというたスタイルです。そろそろ恋人が欲しくなりました。私の自慢は最新型のサイクリングツアー車で走る事です。

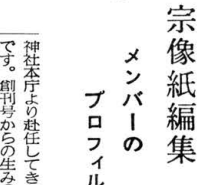
斎藤氏＝庶務を担当、皆様方の御便りを集録しています。大肉で笑う気分のいい男です。今春大学を卒業し、現在冥見を熱心に捕えています。

宇都宮氏＝旧制緊泣かせ、それは一番大事なオカネを握っているからです。新聞の出来が悪い時は中々支払いを致しません。しかしこれはより良き新聞にする大事なお事なのです。

三苫氏＝郡内で唯一の第三種郵便をオートバイに乗せて運びます。発送の帰りオミキが廻り過ぎ、田圃の中でいねむりをする事があります。

葦津氏＝口も八丁手も八丁、部一番ものしりです。写真は皆氏の作で、玄人はだしと云われ、学生時代写真店を営み、学費はもっぱらこの方でかせいだと云う事です。近頃は余り撮ってくれません。以上部員の紹介を申し上げましたが、微力ながら我々部員一同力を合わせ、より良き宗像の発行に邁進致す所存で、御臨います。どうか今後共御教示、御叱正の程宜しく御願い申し上げます。

宗像紙編集メンバーのプロフィル



宗像紙も御蔭様で第十号を発行する運びになりました。愛読者の方々も次第に多くなり、創刊号の二倍以上の発行部数になりましたので、ここで発行部数と編集メンバーの御紹介を致し度いと思います。編集人は合計十名、備品はタイプライター一台、オートバイ二台、カメラ三台、刻名印刷機シンプロコピー各一台、それに暗室といったところ。道具だけはこれで揃ります。では次ぐにメンバーを御紹介します。

太田氏＝本紙の編集責任者、今春神社本庁より赴任してきたばかりです。創刊号からの生みの親、育ての親である小野氏の後を継ぎ頑張っています。未だ独身ですから読者の皆様、きれいなお嫁さんをどうぞ宜敷く。

小野氏＝本紙のオールドキャップ。新聞編集のベテラン、本紙を無事軌道に乗せ、現在は若手に責任を譲り少し肩の荷がおりた処。編集部で一番の文筆家であり、また一番正直な人である。正直過ぎて時々部員から笑顔をゆすられ財布がからになるの気の毒です。難波江氏＝すばらしいカット、これは曾、氏の作です。机上には長さ三〇センチもある大きな硯が置かれ、次から次に絵が出来て行きます。今後のカット御期待下さい。ニックネームはメガネ、メガネにかなった御婦人が未だ現われませんので御一人です。自信がある御婦様はご御来社を!! 深田無庵、それは私です。

久保氏＝白雲先生と申し上げれば皆様もうおわかりでしょう。阿蒙少言の諷刺による部員一同ビクビクする事があります。命の綱はビールで、酒は一滴もはいっておりません。楽しみとの中にありーそれはビール瓶の中です。

神戸氏＝宝物紹介のおじさん、沖ノ島調査により島の事ならなんでもござれ、禁忌の島の秘密は私が握っています。少々気になるのは頭のうしろがうすくなって来た事、よくきく毛はえ薬はないでしょうか。

蒲田氏＝愛称オジイチャン、宗像伝説の生みの親です。シベリヤ出兵参加の旧軍人。鼻の下の髭の間から伝説が流水の如くかたられます。スクーターで出社するスタイルはスタミナそのものです。

小林氏＝部の最年少者、社務日誌を担当しています。気はやさしく力もちというたスタイルです。そろそろ恋人が欲しくなりました。私の自慢は最新型のサイクリングツアー車で走る事です。

斎藤氏＝庶務を担当、皆様方の御便りを集録しています。大肉で笑う気分のいい男です。今春大学を卒業し、現在冥見を熱心に捕えています。

宇都宮氏＝旧制緊泣かせ、それは一番大事なオカネを握っているからです。新聞の出来が悪い時は中々支払いを致しません。しかしこれはより良き新聞にする大事なお事なのです。

三苫氏＝郡内で唯一の第三種郵便をオートバイに乗せて運びます。発送の帰りオミキが廻り過ぎ、田圃の中でいねむりをする事があります。

葦津氏＝口も八丁手も八丁、部一番ものしりです。写真は皆氏の作で、玄人はだしと云われ、学生時代写真店を営み、学費はもっぱらこの方でかせいだと云う事です。近頃は余り撮ってくれません。以上部員の紹介を申し上げましたが、微力ながら我々部員一同力を合わせ、より良き宗像の発行に邁進致す所存で、御臨います。どうか今後共御教示、御叱正の程宜しく御願い申し上げます。